

自己紹介

氏名：滝 穂奈

派遣隊次：2018年度3次隊

職種：野菜栽培

派遣国：タンザニア

※新型コロナウイルス感染症の影響により2020年3月に緊急帰国

大学院に通いながら、青年海外協力隊に参加しました。
学部時代は国際農業開発学全般を専攻し、大学院では特に
農業開発経済学について研究をしています。
キリマンジャロマラソン大会にハーフで参加しました。
実は人生初のハーフマラソンでした！(右の写真📷)



タンザニアについて

東アフリカに位置し、キリマンジャロ山やザンジバル島、セレンゲティ国立公園など観光資源が豊富な国。
名産品はキリマンジャロコーヒーとキテンゲ布・カンガ布(アフリカ布)で作られた商品。

言語は、ライオンキングの台詞にある、
ハクナマタタ(心配ないさ〜♪)で有名なスワヒリ語。

タンザニア人を一言で表すと…

Jirani ni ndugu (隣人は兄弟)

話せば友達になり、友達なら家族のように助け合う。
助け合いの精神を持つ人が多い。





どうして協力隊に参加してみようと思ったのですか。

高校生の時にアフリカで活躍する日本人女性(青年海外協力隊員)をテレビで見ました。アフリカは地図上でしか知らない大陸、国であり私とは遠い世界だと思っていました。アフリカで日本人が、ましてや女性が活動をしていることに衝撃が走り、私もそんな女性のようにになりたい！なってみせる！と思ったのがきっかけです。



任地ではどのような活動をされていたのですか。

私の任地・活動先は、街中から少し離れた郊外(ちょうどいい田舎)です。県庁の農業灌漑協同組合課に野菜栽培隊員として活動をしていました。農業を通して村人の生活が良くなるような活動をしたいと考えていたので、村内の農家を巡回したり、新しい作物(村ではまだ栽培されていないもの)を普及するために栽培を始めたり、村の小学生に食の栄養についての授業をしていました。1年目を迎え、やっと動き出した時の帰国であったので、どの活動も中途半端になってしまったことが悔しいです。



協力隊に参加して、自分の中でどのような変化がありましたか。

青年海外協力隊に参加する前は、「私が国際協力をするんだ！」と意気込んでいました。実際に現地で活動をすると、言語、生活や文化の違いなど多くの壁にぶつかり、私は何しに来たのだろう…と悩む日々でした。悩んだって仕方ない、わからないと悩むならわかる人に聞けばいい！「郷に入っては郷に従え」だ！と気付かされ、それからは活動が少しずつ動きだしました。



さいごに

任期が終わった今、憧れていた青年海外協力隊に私が参加していたんだと驚いているほど、夢のような時間でした。どんなに意欲があっても、自分には出来ないこともあること、一発で成功を目指すのではなく、失敗をした方が次に繋がることを身をもって知れたこと…協力隊に参加していなければ気付かずにいたかもしれません。学生上がりの私が貢献できたことは微量だったかもしれませんが、学んだことは数えきれないほどあります。

最後に私が好きなスワヒリ語を紹介します。
**Mlima haikutani lakini
binadamu hakutana**

(山と山は出会わないが人と人は会う)
協力隊に参加して多くの人に出会い、学び、考え、切磋琢磨した日々でした。協力隊で得たすべてを日本で、世界で発揮できる人材になります。

